

文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県、北九州市、大牟田市、中間市、佐賀市、長崎市、荒尾市、宇城市、鹿児島市、萩市、釜石市、伊豆の国市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度		
5 過去の補助事業実績			
平成 2 3 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	—		
平成 2 4 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業	—		
平成 2 5 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
平成 2 6 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
平成 2 7 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
平成 2 8 年度文化遺産を活かした地域活性化事業	0千円		
6 計画の実施状況（概要） <small>※平成29年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。</small>			
<p>1. 人材育成に必要な教材の作成 「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産としての価値を、構成資産が所在する各地で等しく説明し、来訪者の理解を深められるよう、下記の人材育成研修用マニュアルを作成した。</p> <p>①「明治日本の産業革命遺産」インタープリテーションマニュアル ②「明治日本の産業革命遺産」インタープリテーション教本 ③「明治日本の産業革命遺産」ガイドブック-製鉄・製鋼編</p> <p>2. 各構成資産の関係者を対象とする研修会の開催 1で作成した教材を用いて、下記の日程で構成資産の所在する全てのエリアで統一した内容の研修を実施した。 内容：「世界遺産価値：OUVとは」 「明治日本の産業遺産」産業別解説 「世界遺産の伝え方」 「明治日本の産業革命遺産」ガイドブックについて 日時・場所： 10月31日：釜石市 釜石情報交流センター 11月29日：北九州市 八幡西生涯学習センター大会議室 12月4日、5日：伊豆の国市 伊豆の国文化センター韮山時代劇場 映像ホール 1月15日：鹿児島市 ソーホー鹿児島 会議室 1月23日：萩市 萩明倫学舎 1月29日：宇城市 宇城市役所本庁新館 第二会議室 2月6日：佐賀市 佐野常民記念館 2月8日：長崎市 農協会館</p> <p>3. ホームページ上での研修コンテンツ紹介 1で作成した研修教材を「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会のホームページ上に公開した。</p>			
7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 <small>※平成29年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。（指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載。）</small>			別紙①②のとおり
8 効果等の検証・分析結果 <small>※上記7の進捗に対する検証・分析結果を記載し、併せて定性的な効果を具体的に記載してください。</small>			
<p>1 検証・分析結果 【評価指標】各エリア構成資産への来場者総数：411万人 実績：374万人 達成率：3％ （1）29年度の評価指標に対する実績は目標に達していないが、29年度事業で実施した研修を受講した者が実際にガイドを行うのは30年度以降であることから、事業の効果が各エリア構成資産への来場者増につながるのこれからであると期待される。今年度の研修実績を踏まえ、30年度はさらに人材育成研修の充実に努めていきたい。</p>			

【その他の指標】

8エリア9回の研修会を実施し、合計で400名のボランティアガイド、展示施設担当者、構成資産の所在する自治体担当者等が参加した。参加者へ実施したアンケートによると

- ・研修全体について、参加者全体の88%が「良く理解できた」「まあまあ理解できた」と回答。
- ・「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産価値について、参加者の95%が「良く理解できた」「まあまあ理解できた」と回答。

このことから、今回の教材作成、人材育成研修の実施により、参加者の「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産価値についての理解を深める効果があったといえる。

2 定性的効果

8エリア11サイト23の構成資産からなる当該資産について、関係者の連携・協力による一貫したアプローチによる人材育成事業を実施した。全てのエリアで共通した教材を用い、同内容の研修を行うことで、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の全体のストーリー、世界遺産としての価値や構成資産の産業別の位置付けなどについて、正しく一体的にガイド等の理解を深めることができた。このように構成資産の所在する各地で首尾一貫して「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産の価値を伝えることにより、今後多くの方々が世界文化遺産の価値をスムーズかつ正確に理解することが出来、遺産への保全意識が高まる効果があると考えられる。そして、結果として当該世界文化遺産が次世代へ確実に継承されることと期待される。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	各エリア構成資産への来場者総数				関連事業:	①		
目標値 1 :	平成 28 年度	373 万人			⇒	平成 30 年度	411 万人	
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率							
平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度			
万人	万人	万人	374 万人	万人	万人			
			3%					

様式 1 - 2 別紙②

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙（関連事業）

事業①：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業	実施団体：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業実行委員会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	「明治日本の産業革命遺産」全体の価値，23 構成資産のそれぞれの位置付け，製鉄，造船，石炭の各産業別における位置付けを正しく認識し，案内等を行うことができるよう教材を作成し，それを活用した人材育成研修会を構成資産の所在する 8 エリアで開催する。					
具体的な指標：	「明治日本の産業革命遺産」人材育成事業による教材で研修を受けたガイド（有料・無料含む）を活用した利用者数					
目標値：	平成 28 年度	0（単位）	⇒	平成 30 年度	23,040（単位）	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
（単位）	（単位）	（単位）	（単位）	（単位）	（単位）	
			30年度から集計			